

平成26年度事業報告書 第1号議案

平成26年度理科で遊ぼう会の事業報告書（案）

総括と活動一覧

（事業内容）市民ファンドゆめの芽の支援を受けた「こども達の自主精神を育む理科実験支援事業」の2年目であった。

この事業では前年度まで協働事業の枠外にあった事業の大部分もこの事業に加えて実施した。

講座実施機関別の統計を以下に示す。

講座の内容別のクラス数を表にする。

講座内容	小学校	環境情報センター	子どもセンター等	出展形式(その他の事業)	計
モーター	9			2	11
プラスチック	6	1			7
飛行機	6			1	7
ヘロンの噴水	1				1
ビタミンC	1	1			2
電池	1				1
折り紙	3				3
ポンポン船	2	1			3
土の生き物		1			1
ゴム動力ヘリ			3		3
種モデル			2	2	4
キツツキ			2		2
糸電話			1		1
自転車のベル組立				1	1
総計	29	4	8	6	47

上の表で小学校は出前授業、サマースクール、カルチャースクールを含む。

環境情報センターは夏の環境学校（1回）と理科実験（3回）を含む。

出展形式のものは、ゆめの芽事業の枠外の事業として扱った。

クラス、参加講師、児童の数の統計は、ゆめの芽の事業としては以下の通りである。

講座の実施機関	クラス数	講師の数	児童数
小学校出前授業	20	126	595
小学校カルチャースクール等	9	33	253
環境情報センター	4	25	89
子どもセンター、児童館等	8	41	200
総計	41	225	1137

その他の事業としては出展形式のものだけに限った。

講座の実施機関	クラス数	講師の数	児童数
その他の事業； 出展形式 3件	6	16	推定300名

不特定の児童がやってくる出展形式のものなので、モーター19名、バルサ紙飛行機13名種モデルグライダーについては人数は数えきれないが、全部合わせて児童数は300人程度と推定される。

従って、今年度、当会が関わった児童数はゆめの芽事業での1137名を加えて、ほぼ1400名程度と推定する。主な内容は次の通りである。

特筆すべきは、予算は半減したにもかかわらず、出前授業の学校数は1、クラス数は6、児童数は約200増加し、又環境情報センターにおける講座数も3増し、児童数は65増した。謝金の半減にもかかわらず、前にもまして力強く協力された会員に負うところが多い。そして、乏しい予算の中から材料費や、講師謝金を捻出して下さった環境情報センターや子どもセンターにも感謝したい。

1) 出前授業

小学校名	講座名	学年	クラス数	講師の数	児童数
清新小学校	モーター	5	5	33	146
小山小学校	プラスチック	6	3	21	106
小山小学校	モーター	5	3	21	108
谷口台小学校	飛行機	5	3	18	117
谷口台小学校	プラスチック	6	3	21	101
藤野北小学校	ヘロンの噴水	4	1	4	5
藤野北小学校	モーター	5	1	4	8
藤野北小学校	ビタミンC	6	1	4	4
合計	-----	---	20	126	595

2) 小学校カルチャースクール等

小学校名	講座名	クラス数	講師の数	児童数
弥栄小学校	電池	1	7	24
小山小学校	折り紙	2	4	59
小山小学校	ポンポン船	2	8	70
小山小学校	飛行機	2	6	49
南大野小学校	折り紙	1	1	8
南大野小学校	飛行機	1	7	43
合計	-----	9	33	253

3) 環境情報センターでの行事

授業名	講座名	クラス数	講師の数	児童数
理科実験教室	ポンポン船	1	6	24
夏休み環境学校	土の生物	1	8	20
理科実験教室	ビタミンC	1	5	22
理科実験教室	プラスチック	1	6	23
合計	-----	4	25	89

4) 子どもセンター等での寺子屋。

授業名	講座名	クラス数	講師の数	児童数
ひよこ保育園	種モデルグライダー	1	3	21
大沼こどもセンター	糸電話	1	6	32
新町児童館	種モデルグライダー	1	5	26
相武台こどもセンター	ゴム動力ヘリコプター	1	5	30
上溝南こどもセンター	ゴム動力ヘリコプター	1	5	29
横山こどもセンター	キツツキ	1	5	27
麻溝こどもセンター	ゴム動力ヘリコプター	1	6	24
新磯こどもセンター	キツツキ	1	6	11
	合計	8	41	200

ゆめの芽以外の事業は以下の通りであった。

- ・環境まつりの中で、教育プログラムコンテストに参加し、会場賞を獲得した。賞金1万円授与された。
また、出展し、厚紙竹とんぼ（人数不明）、モーター（11名）を実施した。
- ・青少年センターにおける、県の子どもサイエンスフェスティバルに参加。種モデルを実施した（人数不明）。
- ・陽光台公民館の子ども祭りに参加、モーター（8名）、バルサ紙飛行機（13名）、更に、種モデル（人数不明）を実施した。
- ・その他に、市民活動サポートセンターのボランティアチャレンジスクール及び子供の町に参加した。前者は高校生1名で糸電話の準備を手伝い、子どもセンターでの講座に参加してもらった。後者は分解した自転車のベルを組み立てることで、歯車の仕組みを理解してもらうことを狙った。
- ・市との協働事業における成果を纏めて、「一市民グループの理科実験支援活動を通して感じたこと」を日本理科教育学会誌に投稿した。

（会の運営）

役員会

（1）平成26年度第一回役員会

7名の役員中5名が揃う日を見出すのが難しく、結局集まったの会議をやめ、

ネット上のメールにて実施した。

日時 日程；2014年5月16日～18日

場所 ネット上のメールによる。

出席 甲斐田、加藤、金子、田中、中川、中山、矢野

田中から議案を提出した。

- 1) 代表として、自薦ですが、田中 皓
- 2) 副代表として、甲斐田博高さん
- 3) 執行部の位置づけで運営委員会を構成することを提案します。

中山英夫さん；主に教材作成関係の生産管理、工作器具の管理を担当。

中川新一さん；主に作業会の運営を担当。

生野幸子さん；主に授業実施の運営を担当。

木村久子さん；広報、HP関係を担当。

長谷川良枝さん；会計を担当。

山崎徳嘉さん；主に実施先交渉に寄与

田中皓；主に外交および運営委の全般、補助を担当。

以上7人による運営委を構成するする。

以上、出席役員全員の賛成により可決した。

(2) 平成26年度第二回役員会（拡大役員会；メール上）議事録

日時 平成27年4月2日～4日

場所 ネット上のメールによる。

出席 加藤、金子、生野、田中、中川、中山、長谷川、山崎、矢野（アイウエオ順）

欠席 甲斐田、木村（アイウエオ順）

田中から議案を提出した。

- 1) 平成26年度の事業報告書、ゆめの芽事業報告書、決算書、ゆめの芽決算書の案を審議し、一部、修正のうえ監査に提出することとした。

- 2) 平成27年度の事業計画書、収支予算書、ゆめの芽収支予算書の案を審議し、一部、修正のうえ総会に提出することとした。

定例作業会；ほぼ月2回、合計22回（その内ゆめの芽の事業に対応されるのは18件）、

そこで会員間の意思疎通が図られたこともあって

特に運営委員会を開く必要はなかった。pptファイルの再検討、授業内容の再検討が行われた。今年度は環境教育と絡んで、変身プラスチックと題するプラスチックの性質、分類、再利用に着目した授業を開発した。

活発な議論がなされたことはとても良いことであったと思う。

運営委員会；

(1) 5月20日－23日にかけて、メール運営委員会を開いた。

今年度の予算が少ないので、謝金額を減額せねばならず。運用規程第2. 労務報償金に関する規定の3. によって、謝金の改定を検討した。

骨子はリーダー・サポーターの謝金を一授業あたり1200円から800円
作業会は一回あたり800円だったのを400円に減額する。

(2) 随時、環境情報センターの環境まつり対応等でメール上で意見の交換を行った。

平成27年度市民・行政協働運営型市民ファンド「ゆめの芽」ステップアップコースに応募

・応募事業名 こども達の自主精神を育む理科実験支援事業

・平成26年11月23日 公開プレゼンテーション 25万円の予算請求

・平成26年12月8日 採択通知受領。決定額25万円(満額)、採択7件中3位。

「「未来への投資」の継続のため、保護者や公民館と連携や、事業価値のPRにより協力者を得るなど、今後の活動を検討してください。」のコメントが付いた。

神奈川経済新聞を紹介され、インタビューも受けたが、記事が2月号に掲載された。

その他；生産管理、作成した教材の管理、開発面がスムーズであったし、事務面の運営組織も会計、事務局の役割分担が進み、一極集中的運営からの脱却が出来た。

(会員の異動、実施授業テーマ)

平成26年度開始時は正会員は23名であったが、病気のため、1人退会した。前年度6名だった賛助会員は2名となった。しかし、賛助会員、協力会員のなかには、授業や教材作りに積極的に参加する方もあり、とても助かった。

授業に使うpptファイルの開発改良が活発に行われた。

特に、モーター授業のpptファイルの構成については、今まではモーターを作って回転の実験をし、磁石や電池の向きを変える実験をして、いろんな疑問を持ったのちに回転のメカニズムの説明を行っていたが、

小山小の先生から、回転子のコイル巻の説明の後に、整流子の役割、回転のメカニズムの説明をしてほしいとの要請に基づき、小山小、その後の藤野北小でその形のpptでの授業を実施した。ただ、特段の効果があつたようには見えなかった。

作業会の反省会では、実際の実験をやって、疑問を持ったのちに説明することの効果が大きいと認め、従来の形のpptを会の標準のものとし、後者もメニューに含め、実施学校と協議して、進めることとした。

前年度星ヶ丘公民館の授業で試行したゴム動力ヘリコプターが3か所の子どもセンターで採用され、成熟した教材に発展した。

新たに加わった、変身プラスチックは既に3か所で実施した。

又、新たに、難しいが興味を惹きつける材料として、静電気をういたベル、モーター、日時計などの教材モデルを検討中である。

(今後の課題)

ゆめの芽の支援は来年度で終了する。その先の模索を始めているが、あまりはかばかしくない。矢野役員に紹介いただき、11月29日に相模台小の鈴木校長が会長をされる相模原市の理科教育研究会の先生方数人の前で、理科で遊ぼう会の活動についてお話しする機会を得た。質疑があり我々の活動を知っていただく事は出来、又機会を作ろうということになったが、粘り強く働きかけをしていく必要を感じた。

小山小から谷口台小に移られた先生とのコンタクトで、急遽谷口台小に於いて5,6年生に対して授業を行うことになった。個人的な信頼関係の構築が重要であると感じた。先生方との実験会を実施したりすることが重要なかもしれない。